

第3回トンネル式放流設備重金属等含有岩石処理対策検討会 議事要旨

【開催概要】

開催日時：平成27年1月28日（水）14:00～15:30

開催場所：京都テルサ 東館3階 D会議室

【出席者】

構成員：嘉門構成員、足立構成員、齋藤構成員、塚原構成員、宇野構成員、中村構成員、山本構成員、村上構成員、以上敬称略

事務局：琵琶湖河川事務所開発工務課

一般傍聴：18名

【配布資料】

- ・資料 - 1 第3回トンネル式放流設備重金属等含有岩石処理対策検討会 座席表
- ・資料 - 2 トンネル式放流設備重金属等含有岩石処理対策検討会 規約改正（案）
- ・資料 - 3 第3回トンネル式放流設備重金属等含有岩石処理対策検討会 説明資料

【審議概要】

本検討会では、規約改正の確認を行い、天ヶ瀬ダム再開発事業トンネル式放流設備地内における重金属等含有岩石の処理状況、処理案の検討状況、仮置きによる掘削岩石の処理案について事務局及び各社から説明を行い、各構成員より意見及び助言を頂いた。

(1) 開会

- ・資料の確認
- ・琵琶湖河川事務所長挨拶

(2) 規約改正について

- ・本規約の改正を平成27年1月28日から施行することを確認した。

(3) 議事

前回検討会での指摘事項と対応

- ・資料 - 3を基に、事務局から前回検討会での指摘事項と対応を説明した。

各社の工事状況及び掘削岩石の処理状況、既データにおける掘削岩石の評価

- ・資料 - 3を基に、各施工会社（大成建設、鹿島建設、大林・飛島JV）から工事状況と処理対策について説明した。
- ・堆積層ではなく岩盤なので、土層によって基準超過か否かシロクロ付けにくく、グレーを基準値超過としているので処理費も高くなっていると思う。（学識者）
- ・導流部下半の土壌調査は、現地に残置した状態で判定する方法としたい。一回あたりは平均300m³/日を予定しており、現在は分析に7日間かかることを想定しているため、原

位置にて7日先分を先行採取して試験を実施する方法とすることで地上に上げての仮置きはせず、現地での判定後直接の搬出を予定している。表層のみでは試料が偏るため、ブレーカー等で叩き、芯の方からも試料を採取する。(施工者)

- ・破碎帯など濃度が高い傾向がみられるところは、5点法に加えて採取試料を追加して丁寧に対応する。(事業者)

基準値超過岩石処理案の検討状況

- ・工程は厳しいが、封じ込めについて継続して検討していく。イメージや大丈夫という心象を得る努力も必要である。なお、基準値超過分は枚方、一部、大津市で処理している。(事業者)
- ・基準値超過岩石処理案の検討状況は、基本的にはどの事業者も自己完結であるが、限界があって知恵を絞っている。(事業者)
- ・超過分を場外で処理するより近傍で封じ込め処理ができれば、半額ぐらいのコストでがんばれるのではないか。斜面を造るので100%安全ということはないが、技術はあるので、イメージとかに危機意識をもつ必要はない。適切に処理するのだから自信を持って進めないといけない。(学識者)

仮置きによる掘削岩石の処理案

- ・仮置き場による判定は非常に評価できる。これにより判別が確実となる。(学識者)
- ・半日毎の掘削岩石は平均250~300 m³ ぐらいであり、5日分置けるピットがある。ピットの底面はコンクリート舗装とする。(施工者)
- ・掘削ずりそのものが岩石なので、土対法の対象ではない。あくまで準じると言うことで、公定法に準じれば良い。自然由来の重金属の評価はこれでやっている。(学識者)
- ・風乾に時間がかかるため、この時間を機器を用いて2時間程度に短縮しているが、高温で乾燥させずに、55~60程度にしたり、レンジで乾燥時間を短縮するだけの変更となっている。なお、乾燥が十分でないと砒素が高くなる傾向にあり安全側である。(学識者)
- ・雨天のときに雨が掘削ずりにかからないように、シートを被せたら良い。風でシートが飛ばないように、きちっとやってもらう必要がある。(学識者)
- ・仮置きピットの隣にある特別養護老人ホーム(ゆうゆうの里)への配慮や、ダンプの走行を地元が納得する丁寧な対応を図られたい。(関係行政機関)
- ・この仮置きピットがうまくいけば、減勢池部以外もここに運ぶと思うが、もう少しスペースがあれば良いと思う。(学識者)

(4) 閉会

- ・本日の議事内容については、後日琵琶湖河川事務所ホームページで公表する。

以上